

# 琉球大学学術リポジトリ

## 琉球・中国交流史研究

メタデータ	<p>言語:</p> <p>出版者: 上里賢一</p> <p>公開日: 2010-01-22</p> <p>キーワード (Ja): 琉球と中国, 福建省, 交流史, 冊封と進貢, 久米村, 民間宗教</p> <p>キーワード (En): Ryukyu and China, Fujian Province, History of Exchange, Inverstiture and Tribute, Kume Village</p> <p>作成者: 上里, 賢一, 金城, 正篤, 池宮, 正治, 西里, 喜行, 高良, 倉吉, 赤嶺, 守, 長部, 悦弘, 豊見山, 和行, 星名, 宏修, 石崎, 博志, 王, 耀華, 徐, 恭生, 謝, 必震, 方, 宝川, Uezato, Kenichi, Kinjo, Seitoku, Ikemiya, Masaharu, Nishizato, Kikou, Takara, Kurayoshi, Akamine, Mamoru, Osabe, Yoshihiro, Tomiyama, Kazuyuki, Hoshina, Hironobu, Ishizaki, Hiroshi</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属:</p>
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/15029">http://hdl.handle.net/20.500.12000/15029</a>

平成 11・12・13 年度 科学研究補助金 [基盤研究 (B) (2)]  
研究成果報告書

# 琉球・中国交流史研究

(課題番号 11695011)

平成 14 年 3 月

研究代表者 上 里 賢 一

琉球大学法文学部

## 目 次

はじめに		1
研究の概要		4
文化交流拠点としての福州柔遠駅 —王登瀛『柔遠驛草』を中心にして—	上里 賢一	11
かぎやで風節と郭聖王	池宮 正治	23
小説「琉球の子どもたち」とその背景	星名 宏修	34
歴代法案文書の文書様式（構成）と 特殊用語について	西里 喜行	45
『嘉徳堂規模張』にみえる漢籍について	長部 悦弘	67
琉球官話『人中画』と白話『人中画』風流配	石崎 博志	90
明清時期福州中琉関係史跡考	徐恭生 謝必震 傅朗	155
福建師範大学図書館蔵中琉関係明清史料述略	方宝川	172
琉球御座楽《闹元宵》をめぐって	王耀華	193
沖縄圧埴符溯源与考释	林国平	203
史跡解説		220

## はじめに

本研究の計画と研究組織の形成は、琉球大学と福建師範大学との間で大学間交流協定が締結（1997年11月）されたことを契機にしている。この研究に参加した両大学の研究者は、本研究が組織される以前にすでに長年にわたって、それぞれの分野での交流を積んでおり、研究成果も多様多彩な論文として膨大な量が発表されている。

最近、福建師範大学では、本研究の研究分担者が中心となって、「中琉関係研究所」が設立（所長・謝必震）され、積極的な資料の収集・整理、交流史跡の調査が行われており、重要な歴史文献資料やその他関連資料の発掘が相次いでいる。同時に、1980年代以降の中国の対外開放政策と市場経済導入等による近代化政策が、社会のあらゆる面に大きな変化を与えつつあり、研究分野へも大きな影響を与えつつある。

沖縄と中国双方の研究実績の積み重ねと、現在の状況に鑑み、本研究を進めるに当たって、われわれは次のような研究目標を設定した。

- ①琉球王国時代（明・清時代）の約500年に及ぶ琉球と中国との交流史を、各研究分担者の研究領域に則して研究成果を整理し、現時点における到達点をあきらかにする。
- ②琉球王国時代の交流史跡について、沖縄と中国双方でその分布状況を調査し、その実体を明らかにする。
- ③琉球王国時代の交流史に関する文献資料の調査・収集を沖縄・中国双方が連携して進め、相互の情報交換をより効果的にする。
- ④近代以降の琉中関係について、沖縄・中国双方で資料調査をはじめ、官吏・軍人・商人・一般市民等への聞き取り調査をする。とくに関係者への聞き取り調査は、高年齢者が多いため、早急になされる必要がある。

本報告書の内容を見れば、上記の目標にほぼ沿ったものになっていると言えるだろう。琉球と中国（台湾を含む）の歴史・言語・文学・民俗・音楽・書誌学等の幅広い分野にわたり、沖縄・中国双方の論文が掲載されている。共同研究・調査の特色が成果に表れており、各論稿は琉球・中国交流史研究の現在の到達点を反映したものとなっている。

もちろん、反省点も多い。人数の割りには旅費や調査費が少なく、必要な地点についての調査が十分ではなかったこと。とくに、目標の④に掲げた「沖縄・中国双方で資料調査をはじめ、官吏・軍人・商人・一般市民等への聞き取り調査」は、ほとんど手つかずのままになってしまった。「関係者への聞き取り調査は、高年齢者が多いため、早急になされる必要がある」という状況は、時間とともにい

よいは緊急性を要するものであり、今後引き続き継続して取り組む必要がある。

この研究で調査した地点についても、沖縄県内はもちろん、中国においても再度調査する必要がある。沖縄においては、沖縄戦やその後の開発によって多くの文化財と史跡が失われたが、中国においても、最近の急激な開発によって、史跡やその周辺が激変しており、史跡そのものが取り壊されたり、取り壊される危険にさらされたりしているものもある。また、史跡の本来の姿が変容したり、甚だしい場合には、史跡の私物化など、今後の研究に支障を惹起させかねない状況もあり、史跡のもともとの姿をできるだけ正確に記録しておくべき時期にあるといえる。これも、早ければ早いほどよい。

また、琉球王国時代の福建から北京に至る、いわゆる「進貢使路」の沿線とその周辺、冊封使として琉球に渡来した人物に関わる史跡（生家、墓地、公館、役所等）については、中国側の研究者と協力して組織的に取り組む必要がある。進貢使路については、福建省内の研究者ばかりではなく、浙江、江蘇、山東、河北等の広い範囲に及び、冊封使の場合は、中国全土にひろがる。本研究に参加した研究者を中心に、継続して取り組むことが求められている。

福建省の研究者との共同研究は、沖縄側にとっては長年の夢であった。琉球王国時代の明・清との交流の窓口になった場所であり、中国との交流を実務面で支えた「久米三十六姓」の故郷であり、勤学という留学生が学んだ場所であり、沖縄にとっての福建は、中国のどの地域よりも親しみのある特別の場所である。

福建省内に今も残るかつての琉球王国時代の交流史跡が、われわれに問いかけるものは何か。歴史の現場に立った時、胸の中にわきおこる感慨の内容と意味を確かめたい。この研究は、沖縄と福建の研究者が共同で歴史の現場に立ち向かった記録でもある。これは、懐古的な感傷にひたることなく、時空を越えてわれわれの現在につながっている。

琉球大学と福建師範大学の大学間交流協定に基づく研究プロジェクトができたことは、両大学の今後の交流の発展にとって意味深いものであり、これが糸口となって第二・第三の研究計画が企画され実施されることを願ってやまない。

琉球と福建の交流史に関する研究は、政治、経済、文化の広い範囲に及ぶものである。これまでに発表されているテーマも、歴史、文学、言語、考古、思想、民俗、芸能、音楽、絵画、工芸、医学、服飾、飲食等多岐にわたっている。本報告書は、それらのテーマのほんの一部にすぎない。今後それぞれのテーマで、あるいはいくつかの関連するテーマが集まって、いろいろな角度から共同研究が作られることになるだろう。

なお、本報告書を作成する作業に当たっては、多くの方のお世話になったが、なかでも、資料の整理やコンピューター入力、校正等については、平良妙子さん、崎原綾乃さん、渡真利哲君（いずれも琉球大学法文学部大学院生）のご協力を得

た。記して心から感謝申しあげる。

平成 14 年 3 月 5 日

研究代表者  
上里賢一

## 研究の概要

上里 賢一

### I, 研究種目・課題番号・研究課題

基盤研究 (B) (2)・11695011・「琉球・中国交流史研究」

### II, 研究組織

研究代表者	上里賢一	琉球大学・法文学部・教授	中国文学
研究分担者	金城正篤	沖縄大学・人文学部・教授	東洋史
〃 〃	池宮正治	琉球大学・法文学部・教授	琉球文学
〃 〃	西里喜行	琉球大学・教育学部・教授	琉球史
〃 〃	高良倉吉	琉球大学・法文学部・教授	〃
〃 〃	赤嶺守	琉球大学・法文学部・教授	東洋史
〃 〃	長部悦弘	琉球大学・法文学部・教授	〃
〃 〃	豊見山和行	琉球大学・教育学部・助教授	日本史
〃 〃	星名宏修	琉球大学・法文学部・助教授	中国文学
〃 〃	石崎博志	琉球大学・法文学部・助教授	中国語学
〃 〃	王耀華	福建師範大学・文学院・教授	民族音楽
〃 〃	徐恭生	福建師範大学・文学院・教授	中国史
〃 〃	謝必震	福建師範大学・文学院・教授	〃
〃 〃	方宝川	福建師範大学・文学院・教授	中国地方史
研究協力者	林国平	福建師範大学・文学院・教授	民族宗教
〃 〃	森美千代	琉球大学・法文学部部・非常勤講師	中国文学
〃 〃	平良妙子	琉球大学・人文社会科学研究科・院生	〃

### III, 研究経費

平成 11 年度	2, 500, 000円
平成 12 年度	2, 200, 000円
平成 13 年度	2, 200, 000円

#### IV, 研究発表

##### (1) 論文

#### 上里賢一

「毛有慶『竹蔭詩稿抄』」 『日本東洋文化論集』 5号

琉球大学法文学部紀要 平成11年3月 P, 43~P, 72

「孫衣言と琉球官生」 『第6届中琉歴史関係国際学術会議論文集』

中国第一歴史档案馆・第6届中琉歴史関係国際学術討論会籌備会編

平成12年10月 P, 455~P, 470

#### 池宮正治

「漂流と大魚の救助説話——『球陽』を中心に——」

『第8回琉中歴史関係国際学術会議論文集』平成13年3月 P, 421~P, 438

「首里城の舞台に供された組踊と知られざる組踊」

『日本東洋文化論集』7号 琉球大学法文学部紀要

平成13年3月 P, 1~P, 25

#### 西里喜行

「郭崇燾の琉球自立=独立論とその周辺」

『第8回琉中歴史関係国際学術会議論文集』平成13年3月 P, 204~P, 246

#### 高良倉吉

「『羽地仕置』に関する若干の断章」 『日本東洋文化論集』6号

琉球大学法文学部紀要 平成12年3月 P, 125~P, 136

An outline of Ryukyu's Relation to China. Josef Kreinered

Ryukyu in world History. Biersche verlagsanstalt, Bonn 2001

#### 赤嶺守

「中国第一歴史档案馆編『中琉関係档案選編』について」(共著)

『第7届中琉歴史関係国際学術会議論文集』 中琉文化経済協会

平成11年12月 P, 121~P, 196

「嘆願書にみる「脱清人」の国家構想」『琉球・東アジアの人と文化』(下巻)

高宮廣衛先生古稀記念論文集刊行会 平成12年10月 P, 58~P, 99

#### 長部悦弘

「于氏研究」 『日本東洋文化論集』6号 琉球大学法文学部紀要

平成12年3月 P, 71~P, 113



### 豊見山和行

「近世琉球における漂流・漂着問題——漂着民救護と日本漂着事例から——」

『第8回琉中歴史関係国際学術会議論文集』 平成13年3月 P, 39~P, 58

### 星名宏修

「交錯するまなざし——植民地台湾の沖縄人はいかに描かれたのか——」

『野草』64号 中国文芸研究会 平成11年8月

「『血液』の政治学——台湾「皇民化期文学」を読む——」

『日本東洋文化論集』7号 琉球大学法文学部紀要

平成13年3月 P, 5 ~P, 54

### 石崎博志

「漢語資料による琉球語研究と琉球資料による官話研究について」

『日本東洋文化論集』7号 琉球大学法文学部紀要

平成13年3月 P, 55~P, 98

「『琉球譯』の基礎音系」 『沖縄文化』92号 沖縄文化研究所

平成13年10月

### 王耀華

「琉球御座楽『一更里』初探」 『第8回琉中歴史関係国際学術会議論文集』

平成13年3月 P, 247~P, 260

### 徐恭生

「清代海上漂風難民拯濟制度的建立和演變」

『第8回琉中歴史関係国際学術会議論文集』 平成13年3月 P, 59~P, 72

### 謝必震

「康熙帝與琉球」

『第8回琉中歴史関係国際学術会議論文集』 平成13年3月 P, 179~P, 192

### 方宝川

「福建師範大学図書館蔵中琉関係史料述略——明清文献之二——」

『第8回琉中歴史関係国際学術会議論文集』 平成13年3月 P, 297~P, 312

### 林国平

「沖縄道教符考釋」

(2) 著作

- 上里賢一 『琉球漢詩の旅』 琉球新報社編 平成13年3月  
『閩江のほとりで——琉球漢詩の原郷に行く——』  
沖縄タイムス社 平成13年7月
- 西里喜行 『ロバートバウン号の苦力反乱と琉球王国——揺らぐ東アジア  
の国際秩序——』 榕樹書林 平成13年5月
- 高良倉吉 『日本の歴史 14巻・周縁から見た中世日本』(共著) 講談社  
平成13年12月 P, 141～P, 264
- 豊見山和行 『海のアジア5 越境するネットワーク』(共著)  
P, 181～P, 203
- 星名宏修 『点亮台湾文学的火炬』(共著) 春暉出版社(台湾)  
「殖民地的沖縄人如何被描写了?!」 1999.6 P, 23～P, 39

(3) 口頭発表

上里賢一

- 「琉球漢詩の世界」 平成13年度九州中国学会シンポジウム「琉球と中国」  
平成13年5月(琉球大学)
- 「中琉文化交流の精華——王登瀛の『柔遠驛草』——」  
第6回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム(北京)

西里喜行

- 「郭崇燾の琉球自立＝独立論とその周辺」  
第8回琉中歴史関係国際学術会議 平成12年11月(那覇)

赤嶺守

- 「『歴代宝案』と琉球王国」平成13年度九州中国学会シンポジウム「琉球と中国」  
平成13年5月(琉球大学)

豊見山和行

- 「近世琉球における漂流・漂着問題——漂着民救護と日本漂着事例から——」

第8回琉中歴史関係国際学術会議 平成12年11月（那覇）

**星名宏修**

「現代中国文学研究における台湾文学研究」

立命館大学国際言語文化研究所連続シンポジウム「文化接合のしま：台湾」

平成12年11月

「台湾における沖縄人」 日本社会文学会第4回日台シンポジウム

平成13年12月

**石崎博志**

『琉球譚』の基礎音系について」

平成13年度九州中国学会シンポジウム「琉球と中国」

平成13年5月（琉球大学）

**王耀華**

「琉球御座楽『一更里』初探」

第8回琉中歴史関係国際学術会議 平成12年11月（那覇）

**徐恭生**

「清代海上漂風難民拯濟制度的建立和演變」

第8回琉中歴史関係国際学術会議 平成12年11月（那覇）

**謝必震**

「康熙帝與琉球」 第8回琉中歴史関係国際学術会議 平成12年11月（那覇）

**方宝川**

「福建師範大学図書館蔵中琉関係史料述略——明清文献之二——」

第8回琉中歴史関係国際学術会議 平成12年11月（那覇）

**林国平**

「沖縄道教符考釋」 第8回琉中歴史関係国際学術会議 平成12年11月（那覇）

**V, 調査概要**

平成11年度

期 間：平成11年8月26日～9月2日

調査者：王耀華・徐恭生・林国平・沖縄側の研究分担者（沖縄滞在中の謝必震）

を含む)

調査地：那覇市内及びその周辺（琉球大学附属図書館、沖縄県立図書館、沖縄県立博物館、沖縄県公文書館、那覇市史編集室、久米崇聖会等）

期 間：平成 11 年 10 月 29 日～11 月 2 日

調査者：石崎博志

調査地：上海（上海図書館・復旦大学図書館）

期 間：平成 11 年 12 月 15 日～12 月 21 日

調査者：金城正篤・上里賢一・豊見山和行・中国側の研究分担者及び研究協力者

調査地：福州市内（福建師範大学附属図書館、琉球館、琉球人墓群、尚書廟、閩安鎮、趙新墓、謝傑墓）、莆田市（媚州島媽祖廟）

#### 平成 12 年度

期 間：平成 12 年 10 月 29 日～11 月 2 日

調査者：石崎博志

調査地：上海（上海図書館・復旦大学図書館）

期 間：平成 12 年 10 月 31 日～11 月 10 日

調査者：王耀華・徐恭生・林国平・謝必震・方宝川・沖縄側の研究分担者

調査地：那覇市内及びその周辺（琉球大学附属図書館、沖縄県立図書館、沖縄国際大学南島文化研究所）、琉中歴史関係国際学術会議参加（報告と討論）

期 間：平成 13 年 2 月 10 日～2 月 12 日

調査者：高良倉吉

調査地：座間味村（阿護の浦、座間味港等）

#### 平成 13 年度

期 間：平成 13 年 10 月 18 日～10 月 25 日

調査者：西里喜行・池宮正治・上里賢一・赤嶺守・中国側の研究分担者及び研究協力者

調査地：福州市内（福建師範大学附属図書館、琉球館、琉球人墓群、尚書廟、閩安鎮、怡山院天妃宮、蔡夫人廟、金將軍廟）、莆田市（媚州島媽祖廟）、泉州市（海外交通史博物館、開元寺、天妃廟、来遠驛）

期 間：平成 14 年 3 月 2 日～3 月 7 日

調査者：赤嶺守・星名宏修・森美千代・平良妙子

調査地：台湾台北市（国立中央図書館台湾分館、台湾大学附属図書館、中央研究院東亜区、故宫博物院）

期 間：平成 14 年 3 月 2 日～3 月 6 日

調査者：石崎博志

調査地：香港（香港中文大学附属図書館）、福州市（福建師範大学附属図書館）、上海（上海図書館）

## VI, 研究協力機関

国立国会図書館

国立公文書館

京都大学附属図書館

沖縄県立図書館

沖縄県立公文書館

沖縄県立博物館

那覇市史編集室

琉球大学附属図書館

沖縄国際大学附属図書館

沖縄国際大学南島文化研究所

沖縄県立芸術大学附属図書館

久米崇聖会

福建師範大学附属図書館

福建省莆田市媽祖研究会

泉州市海外交通史博物館

上海図書館

復旦大学附属図書館

香港中文大学附属図書館

台湾大学附属図書館

国立中央図書館台湾分館

故宫博物院（台湾）